

Photo ふなばし

とくしゅう
PART 1

永年の市民交流が実を結ぶ
船橋市・西安市
中国友好都市締結



来年、市場小学校と友好学校を結ぶ西安市の大雁塔小学校で、子供たちの熱烈歓迎を受ける大橋和夫市長

とくしゅう
PART 2

船橋市 姉妹都市締結5周年 オーデンセ市

暮らしに生きる姉妹都市交流



ワンバク王国では豊富小学校の児童が
オーデンセ市長一行を歓迎



茶道のお点前を受けるヘイワ
ード市姉妹都市委員の皆さん

とくしゅう
PART 3

ふなばし秋の伝統行事



飯山満神明神社で行われた「こかじ」の舞。
剣打ちの舞とも言われる

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信 ●ズームアップ
- WE ARE IN FUNABASHI

まちなかの文化財／ふなばしの民話
ペットインタビュー

vol. 64

広報ふなばし写真版

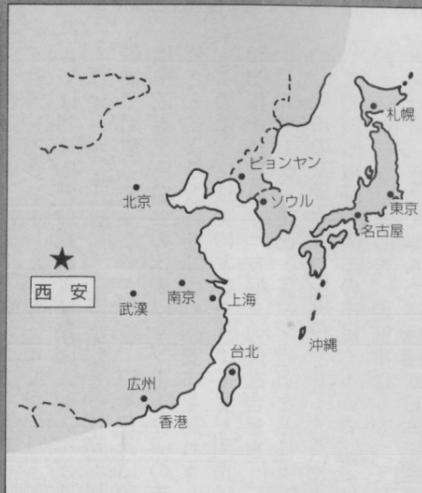
永年の市民交流が実を結ぶ

船橋市・西安市 中国 友好都市

締結



友好都市提携の調印式が行われた「唐華賓館」



西安市は、陝西省の省都で、人口は約630万人。3100年余の歴史を持つ古都です。

かつては長安と呼ばれ、その一帯は紀元前11世紀から約2000年もの間、秦、漢、隋、唐など11王朝の都として栄えてきました。シルクロードの起点として知られ、秦の始皇帝陵、兵馬俑坑、大雁塔、華清池など、古代からの文化遺産も豊富です。

一方、中国西北地方最大の都市であり、政治、経済、産業、文化の中心地でもあります。また近年では、高度技術を導入した工業団地が建設されるなど、新たな一面も注目されています。

船橋市と中国の古都西安市が友好都市提携をしました。調印式が行われたのは、11月2日、西安市内にある両市合作のホテル「唐華賓館」。船橋市民や市議会の代表など294人と、西安市民・関係者150人が見守る中、崔林濤西安市長と大橋和夫市長が協議書にサインをし、より深い友情を誓ってがっちりと握手をしました。

西安市と船橋市の交流は、昭和57年、西安市の訪日友好団の来船に始まり、以来、文化・経済・スポーツなどを通して、盛んな交流が行われてきました。12年にわたる市民ぐるみの交流が、見事に実を結び、友好都市締結となったのです。

船橋市・西安市の両市民が熱望していた友好都市提携。

調印式で大橋和夫市長(左)と崔林濤市長が無限の友情を誓いました



大雁塔小学校を訪れた友好親善使節団を子供たちが熱烈歓迎



大橋市長を団長とする友好親善使節団が唐華賓館に到着すると、かわいい西安市の子供たちが花束で出迎えてくれました



チャイナドレスのファッションショーも行われました



最先端工業団地、西安新高新技术産業開発区の説明を受ける大橋市長



西安市内のレストランで行われた歓迎レセプション

友情の証として船橋市民から贈られた桜の苗木の植樹式が慈恩寺庭園内で行われました



慈恩寺庭園には桜贈呈の記念碑も建立されました



多くの人や車で活気にあふれる西安市内の大通り



友好都市提携の調印式に、船橋市から294人の使節団と、西安市関係者150人が出席しました



友好都市提携の調印をする大橋市長(左)と崔市長

昭和57年11月、西安市の訪日友好使節団が初めて船橋を視察しました。翌58年5月には、船橋としては初めての公式親善使節団(80人)が西安市を訪問。59年11月に「中国西安文化物産展」を船橋で開催しました。さらに、63年3月には、船橋市国際交流協会の代表団や、110人の市民の皆さんによる友好訪問団も西安市を訪れました。このように着実に友好を深めてきた両市は、昭和63年4月26日、「友好交流促進合意書」に調印し、スポーツ・文化・芸術・経済など様々な分野で、両市の交流をさらに深めることを誓いました。この調印以降、両市の市民ぐるみの交流は、一段と活発になりました。西安市は、かつては長安と呼ばれ、そこで学んだ遣唐使が日本に唐蕃を伝えました。また、重陽武功の発祥地でもあります。そこで、「船橋市・西安市国際親善大会」を毎年会場を交互に開催したり、平成元年から武功の先生を船橋に招いて、重陽武功講習会も開催し、とても好評を得ています。この武功は、船橋市が全国の自治体の中でもいち早く紹介し、普及を進めたものです。健康に関心の高い市民の皆さんの間に急激に広まり、市内ではたくさんの方の気功サークルが活動しています。

平成5年10月には、「友好交流促進合意書調印5周年を記念して、大橋和夫市長を団長とする約300人が西安市を訪問し、囲碁・気功のほか、書道・絵画・茶道・華道・卓球など様々な分野の交流を通して両市民の友好を深め、友好都市締結に向けて、大きな成果を挙げました。

そして今年11月2日、念願の友好都市調印。船橋は、京都・奈良に続いて日本で3番目の西安市の友好都市となりました。中国では、友好都市は1国に2都市を原則としています。永年の市民レベルの盛んな交流が、中国政府にも特例的に認められたのです。

今回の訪問では、友情の証として船橋市民の皆さんの協力で集められた、3000本の桜の苗木を西安市に贈りました。昨年建立した両市友好記念の「友情無限」の碑の立つ、大雁塔近くの庭園でその植樹式も行われ、また、西安市から贈られるボタンの花の贈呈式も行われました。

船橋市と西安市は、人と人・心と心の交流を通して、無限の友情を育てていきます。

暮らしに生きる姉妹都市交流



アンデルセン公園の模型を使って、その概要などを説明する大橋和夫市長。アンデルセン公園は平成8年に子ども美術館とメルヘンの丘の主要部分がオープンする予定です



10月20日に行われたアンデルセン公園の起工式

子ども美術館完成予想図。子供たちの創造力を育てる、全国でもユニークな美術館です



オーデンセ市に建つアンデルセン像が世界で初めてメルヘンの丘に複製されます



船橋市とオーデンセ市の友好記念の碑を視察する両市長



10月25日には、市船とオーデンセ市のサッカーユースチーム「1909B」が交流試合をしました



10月24日、サッカーのユースチームが大橋和夫市長を表敬訪問しました



福祉の専門家3人をオーデンセ市から招きました



国際交流協会の歓迎レセプションで、アンカー・ボイエ市長もばか面踊りにチャレンジ



姉妹都市交流のきっかけとなった船橋市の電算システムを視察する親善使節団の皆さん



市内の医療・福祉関係者など60人が参加して行われたフューチャー・ワークショップ

船橋市とデンマーク・オーデンセ市が、平成元年4月に姉妹都市を結んで、今年で5周年を迎えました。これを記念して、今年1月に就任したオーデンセ市のアンカー・ボイエ市長を団長とする親善使節団や、福祉の専門家らが来船。有意義な交流を行いました。

10月20日には、アンカー・ボイエ市長ご夫妻が出席して「アンデルセン公園」の起工式が行われました。「アンデルセン公園」は、現在のワンパク王国を2倍の広さに拡張して、新しい施設を増設するものです。子供たちが、自然の中で伸び伸びと遊べるように、大人には、忘れていた童心を思い出してもらうために開設したワンパク王国。それに、子供たちが持っているすべての感覚を使って楽しみながら創作する、全国でもユニークな「子ども美術館」と、オーデンセ市が生んだ世界的童話作家アンデルセンの童話の精神を生かした「メルヘン（童話）の丘」が加えられます。また、オーデンセ市のアンデルセン公園に立つ、高さ2・8メートルの「アンデルセン像」の複製化が、世界で初めて認められ、「メルヘンの丘」に設置されることになっています。

そして10月18日から21日まで、オーデンセ市の福祉の専門家3人を招いて、高齢者問題について考える研修会「フューチャー・ワークショップ」が開かれました。オーデンセ市は、福祉先進国デンマークでも高齢者福祉の進んでいる都市として知られています。その豊かな経験から生まれた様々なノウハウを学んで、21世紀の船橋市の福祉施策に役立てようとするもので、市内の医療・福祉関係者など60人が参加し、真剣な眼差しで取り組んでいました。

現在、船橋市では、オーデンセ市の優れた手法を取り入れた、船橋独自の高齢者福祉施設「ケア・リハビリセンター」の建設を計画しています。「フューチャー・ワークショップ」の成果は、この施設の運営にも生かされていきます。

オーデンセ市との交流は、文化・スポーツはもちろん、子供たちの夢をはぐくみ、21世紀に向けた豊かで住みよいまちづくりに、確かな手ごたえを与えています。



豊富小学校児童の歓迎に握手でこたえるアンカー・ボイエ市長

ふなばし秋の伝統行事



身代観世音のご開帳に合わせて行われた稚児行列



市内で最も古くから行われている大神宮の神楽



大神宮の「けんか相撲」。一番相撲、二番相撲、
新手二番と、迫力満点の取り組みが続きます



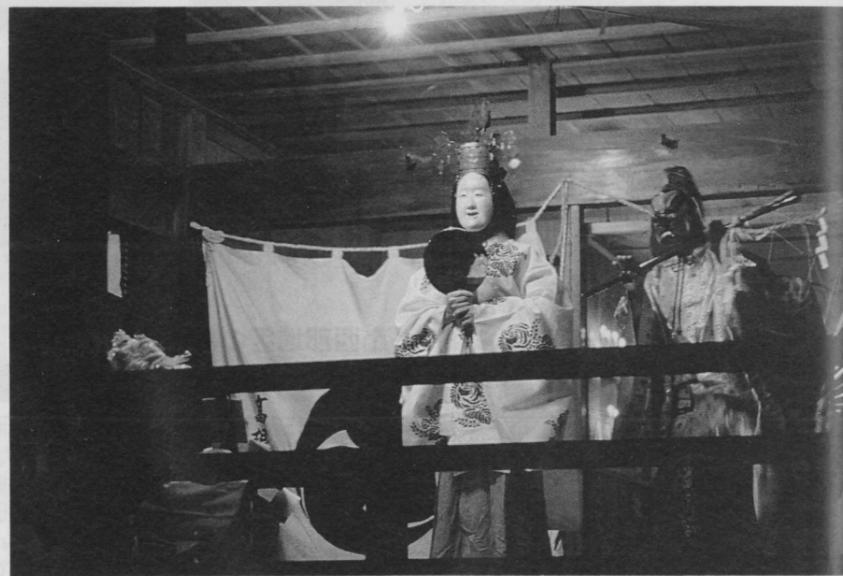
大神宮の子供相撲大会。毎年たくさん
の子供たちが参加しています



藤原観音堂の「身代観世音」



参道に並ぶ出店に、子供たちも大喜び (高根神明神社)



神楽の最後を飾る「天の岩戸舞」(高根神明神社)



ささ舞。天鈿女命が天香具山の笹葉を手草に結んで舞をしたと伝えられています (飯山満神明神社)



二宮神社のもちまきは毎年盛大に行われます



演目によって13の面が使い分けら
れます (飯山満神明神社)



大胴や鼓、笛などの楽器を6人で演奏します
(飯山満神明神社)

参道が短い急坂になっていて、途中右側に「不許軍酒入山門」が建っていて、禪宗のお寺である。左側に「下総三十三所補陀場第一番目」と角石。明和四年(一七六七)と読めるから結構古い。十代家治の時代で田沼意次が側用人に進んだ年。山県大武、藤井右門らが逮捕・斬首され、竹内式部が連坐して八丈島に流された年だ。

由緒ある古寺らしい。ご本尊の聖観世音菩薩(市文化財)は五十年に一度しかお目にかかれぬという秘仏だし、三代家光から十四代家茂までの徳川將軍家代々の朱印状も保管されている。当然書体や文面は違っているが寺領五石、竹木諸役の免除を認めている。「禪宗では空とか無とか云いますが、人間死んだらどうなるんしょ」「死後の世界はありますか」「西方浄土のような、ですか」「禪は自力で悟ります」「聞き手が浅学だから孝郎(こうおん)師も困ったろう。禪問答ならぬ珍問答を繰返す。住職さんは若狭小浜の寺小僧からだんだん偉くなって一寺を預かるまでになり、この船橋には十数年前に移られた由。これから落葉ですな。ケヤキの大木をふり仰ぐ。真青な秋の空である。

(文・大木 勲)

徳川將軍家の朱印状

寺町の文化財
長福寺
(夏見6丁目)

新しく建てられた山門



22人の楽人の皆さんが中心になって、
神楽がとり行われます
(飯山満神明神社)

実りの秋は、伝統行事が盛んに行われる季節です。船橋では、江戸時代後期から明治の初めに、各神社で五穀豊穡と村の安泰を祈願して舞い始めたと言われている神楽がその一つ。現在では、高根の神明神社をはじめ、三山の二宮神社、飯山満の神明神社、船橋大神宮、飯山満の大宮神社の5か所で受け継がれています。中でも高根神明神社の神楽は、最も舞の数が多く、14種類が披露されます。最後に天照大神を岩屋から連れ出す「天の岩戸舞」から「岩戸神楽」とも言われています。

大神宮の神楽は最も古くから行われていたようですが、毎年10月20日の例祭では、この神楽のほかに、江戸時代、相撲好きで徳川家康の前で披露したという「けんか相撲」も開催されています。

また、33年に一度ご開帳される藤原観音堂の「身代観世音」(木造観世音菩薩立像)。今年がその33年目にあたり、11月18日から20日までご開帳されました。33年という数字は観音菩薩が33通りに姿を変えて人々を救ってくれることに由来しています。

この他にも、市内にはたくさん有形・無形の文化財や史跡、郷土芸能が残され、受け継がれています。

人口約54万人、豊かで住みよい国際都市の実現を目指して発展する船橋市。しかし、伝統行事や文化財は、市民の皆さんの共有財産であり、郷土意識を育てるという意味でも貴重な財産となっています。船橋市も、それぞれの地域で保存活動している皆さんを応援し、調査・記録・保存に力を入れています。

市民の力作600点が出展
第32回船橋市市展

11月9日から23日まで、市民ギャラリーで第32回船橋市市展が開催され、市内在住・在勤の皆さんの作品およそ600点がずらりと展示されました。作品は洋画・日本画・彫塑・工芸・書の5部門。市長賞や美術連盟賞などの優秀作品はもちろん、どの作品からも、作者の情熱がひしひしと伝わってくるような力作ばかりです。会場を訪れた3600人の皆さんは、作品1点1点をじっくりと味わい、そのすばらしさに思わずため息をもらす姿も見られました。この市展、市民ギャラリーに芸術の秋にふさわしい彩りを与えていました。



訪れた皆さんは芸術の秋を満喫していました



エアロピクスの楽しさを知ってもらおうと、10月16日、習志野野の総合体育館で、'94エアロピクスふえすていばるが開催されました。当日は、経験者だけでなく、これから始めようとする初心者など約400人の皆さんが参加。オープニングセレモニーに続いて全員参加による特大レッスンが行われ、心地良い汗を流していました。また、全日本トップクラスの模範演技の披露や、色々な道具を使ってのエクササイズも紹介されるなど、エアロピクスを満喫する一日となりました。



松が丘公民館では、カラオケのサークルの皆さんと「お祭りマンボ」を一緒に歌いました

2万4000人がさわやかな汗を！
'94船橋市スポーツ健康の祭典



10月10日体育の日、'94船橋市スポーツ健康の祭典が、運動公園をメイン会場に行われました。開会式では、大橋和夫市長が「船橋市は、21世紀に向かって、子供やお年寄り、障害を持つ皆さんを大切にすまづくりを力強く進めています」とあいさつ。サッカー教室には、横浜フリューゲルスの高田昌明選手(市立船橋高出身)らが招かれ、ミニサッカーでたくさんの子供たちと交流しました。また、武道センターや若松グラウンドなどで様々な催しが行われ、約2万4000人の皆さんがさわやかな汗を流しました。



▲Jリーガーとのミニサッカーに子供たちも大喜び
◀10月30日には行田公園で塚田地域祭も行われました

元気の骨はカルシウム
第13回健康展開催！

市民の皆さんに健康の維持増進についての知識を深めてもらい、健康づくりに役立てようと毎年行われている船橋市健康展が、11月4日・5日の2日間、北部福祉会館で開催されました。13回目となる今年のテーマは「元気の骨はカルシウム」。会場ではカルシウムを豊富に含んだ食事の作り方の実演や試食、将来骨粗しょう症にならないよう生活改善の目安となる骨密度測定など、日本人に不足しているカルシウムに焦点をあてたイベントが行われました。このほかストレッチ体操の指導なども行われ、2日間で800人を超える市民の皆さんが訪れました。



▲ストレッチ体操は無理をしないで
行うのがコツです
◀カルシウムをテーマにした川柳や
写真のコンテストも行われました

様々な分野に広がる交流
ハイワード市姉妹都市委員の皆さんが来船

11月9日から15日まで、船橋市と姉妹都市を結んでいるアメリカ・ハイワード市から、ジョン・クレイグ姉妹都市委員長など、5人の皆さんが船橋市を訪れました。皆さんは、市立船橋高校で茶道のお点前を受けたり、松が丘公民館でサークル活動に参加したりと、市民の皆さんと友好を深めました。また、10日には大橋和夫市長を表敬訪問。委員の皆さんから、船橋の子供たちの絵をハイワード市に送ることや、ハイワードの少年野球チームを船橋に遠征させるなどの提言がされると、大橋市長もこれを了承しました。両市の交流はますます広がっていきます。

▼市船で書道に挑戦するジョン・クレイグ姉妹都市委員長

市立では県内初
北老人デイサービスセンターがオープン

北部福祉会館(三咲7)内に、市立としては県内初の北老人デイサービスセンターが、10月から業務を開始しました。デイサービスは、体が弱くて介護が必要な65歳以上の方が、施設に通いながら日常の動作訓練や給食、入浴などのサービスを受けられる制度です。このセンターでは、お年寄り同士で楽しいひとときを過ごしなが、歩行訓練や軽い体操などのリハビリテーションを行い、また、介護するご家族の負担を和らげます。センターと自宅の間をバスで送迎しますので、大変利用しやすくなっています。北老人デイサービスセンターのオープンにより、市内でデイサービスを行う施設は、ワールドナーシングホーム、古和釜恵の郷、船橋梨香苑、南西苑と合わせて5か所になりました。(北老人デイサービスセンター ☎40-1615)



▲みんなで会話をしながらの食事は格別です



◀ゲームなどを楽しみながら日常動作訓練を行います

和太鼓と吹奏楽の合同演奏
ストリートコンサート

10月30日、ストリートコンサートとして親しまれている、船橋市音楽フェスティバルが、船橋駅北口のおまつり広場で行われました。船橋太鼓同志会の皆さんによる「秩父屋台ばやし」を皮切りに、この日のために結成された混成アマチュア吹奏楽団が、人気アニメのセラーマン伝説や、イン・ザ・ムードなどを演奏。フィナーレで、全員による八木節などが披露されると、和太鼓と吹奏楽のすばらしいセッションに、会場を取り囲んだ沢山の皆さんから盛大な拍手が贈られました。



フィナーレは和太鼓&フェスティバルバンドの皆さんにより「大船橋音頭」などが高らかに演奏されました



大きな掛け声と共に行列したくわ入れ

市西部地区の福祉の拠点
西部老人福祉センターが着工

10月31日、藤原3丁目の旧藤原学園跡地で、西部老人福祉センターの起工式が行われました。くわ入れに続いてあいさつに立った大橋和夫市長は、「市西部地区の福祉の拠点が、1日も早く完成するよう努力します」と話しました。この施設は、お年寄りの皆さんに健康で明るい生活を送ってもらおうと、陶芸教室用の作業所やデイサービスセンターが設置されるほか、児童ホームも併設する複合施設です。開館は平成8年4月の予定です。



各表彰ごとに代表者が表彰状と記念品を受け取りました



修学旅行で行った日光が、とても良かった。
足利 淳くん
深井啓世くん(二宮小)
中川 昇くん



今年3月に長男が生まれたことですネ。
片岡康子くん(小室町)
良介くん(8か月)



2か月間食べたタイ米がおいしくなかった。
山田社彦くん(夏見2)
東 亮くん(2歳)



15年間かわいがっていた愛犬ロッキーが亡くなって、とても悲しかったです。
羽金京子くん(三咲5)

テーマ
「今年一番印象に残った出来事は？」
市民ひとことインタビュー

ボランティアグループ訪問⑤

ひまわり

「お年寄りの皆さんが持っている力を、少しでも伸ばすようにして、自立への手助けができれば」と活動しています。地域の会合で、自分たちができることを何かやってみようとしたのがきっかけ。法典公民館を拠点に、ボランティアセンターや地域の保健婦からの依頼で、話し相手や家事全般、入浴の介助などの活動をしています。「得ることが多く、心が豊かになります」と皆さん。行政とお年寄りを結びパイプ役となり、将来に向けて、より良い福祉を創造できるような活動を目指し、皆さんが丸となって頑張っています。



「自分の時間に、自分のできることを」が基本です

老人憩の家での読み聞かせ

スポーツの秋 ららリンピック開催

10月2日から16日まで、スポーツの秋にちなんで秋のららリンピックがららぼーとで開催されました。「角盈男&渡嘉敷勝男スポーツわいわいトーク」を皮切りに、流行の3on3やスポーツウォークラリーなどが行われました。3on3では熱戦の末、男子の部で「ふれんど」、女子の部で「マザーグース」がそれぞれチャンピオンの座を手にしました。



白熱した戦いが繰り広げられました

江戸芸かっぽれ 第1回船橋かっぽれ祭り

産業まつりなど色々な催しに参加して、市民の皆さんの目を楽しませている「江戸芸かっぽれ」。船橋を中心に活動している「若寿連」の皆さんが、10月16日勤労市民センターで、初めての舞台を開きました。豊年齋五代目家元の櫻川びん助さんの小鼓と、今回の会主、櫻川梅若寿さんの太鼓で幕を開け、深川、奴さんなどを次々と披露。また、第2部にはハワイアン、大喜利ではばか面踊りも参加するなど、盛り沢山の催しに、満員の会場から大きな拍手が送られました。



次々と粋な踊りが披露されました



ゴミ投げ捨て禁止の啓発も兼ねています



市内全域で、5万5000人が参加しました

ゴミの投げ捨てはやめましょう 船橋をきれいにする日

11月20日、市内で一斉に「船橋をきれいにする日」が行われました。これは、街や道路に散乱しているゴミを一掃し、船橋をきれいな街にしようと、毎年11月に実施されているものです。午前9時、中央会場の天沼弁天池公園には、自治会・町会、青年会議所など38団体が構成されている、クリーン船橋市民会議の呼び掛けに約900人が集合。回収袋を手に八栄橋まで、道路沿いや川沿いのゴミを拾い集めました。また、市内全域でも5万5000人が参加。資源ゴミを含め2万8350kgのゴミが集められました。この運動を広く浸透させて、船橋をきれいな住みよいまちにしていきたいですね。

街まちかど角 ホットニュース

皆さんからの情報をお待ちしています。▶広報課 ☎ 36 2015

船橋自転車少年団が結成20周年 記念のブロンズ像を除幕

10月16日、船橋自転車少年団の結成20周年記念式典が、船橋ごう前で行われ、記念のブロンズ像「昇龍の像」を除幕しました。式典では、大橋和夫市長が「自転車少年団は、交通安全の指導を通して人間形成を図る一方、海老川の浄化運動にも努めています。この像は、市民の皆さんが海老川を散策するときの道しるべにしてください」とあいさつしました。このブロンズ像は、漫画家の牧野圭一さんの作品で、海老川十福像の1つです。来年も2つのブロンズ像が加わり、海老川の散歩が、ますます楽しくなります。



関係者の皆さんによって除幕式が行われました

高さ10センチのブロンズ像「昇龍の像」

様々な分野の芸術家が集って 美術集団スクエアNEW展



▲興味深く作品を見る皆さん

▲作者の講演も行われました

絵画、書、写真、彫塑、華道工芸など、色々な分野の芸術家の皆さんが集まって、市民ギャラリーを拠点に活動している「美術集団スクエアNEW」の作品展が、10月13日から19日まで開催されました。これは従来の芸術の枠を取り外し、ジャンルの異なった作品を一堂に展示することにより、新しい創作意欲を引き出そうとするもの。すばらしい作品の数々に、連日たくさんの皆さんが訪れていました。

湊町祭りばやし競演 第1回船橋ばか面踊り芸能祭



軽妙な踊りに、会場は笑い声が絶えませんでした

11月13日、市民文化ホールで、船橋ばか面踊り芸能祭が開かれました。これは、郷土芸能であるばか面踊りを市民の皆さんにもっと知ってもらい、一緒に楽しんでもらおうと、今回初めて開催されたものです。当日は、船橋湊町ばか面踊り保存会に所属する12のはやし連が参加。祭りばやしやばか面踊りの競演を披露しました。また、昔の漁の様子を再現したコミカルな芝居や、ばか面踊りの基本講習会なども行われ、満員の会場は、お祭りムード一色に染まりました。

ズームアップ

相撲漫画家

琴剣 淳弥さん(二宮一)

漫画を通して 真の相撲を知らせたい



貴乃花の二場所連続全勝優勝、横綱昇進の話題で、日本全国が注目した大相撲九州場所。大相撲は、若貴兄弟の活躍で、いつも満員御礼の超人気スポーツになった。そしてもう一人、この相撲人気で大忙しになったのが、元佐渡ヶ嶽部屋力士だった、現在、相撲漫画家の琴剣さんだ。 昭和51年春、中学卒業を迎えた琴剣さんは、佐渡ヶ嶽親方(元横綱・琴剣)に、大きな体(現在188cm、130kg)を見込まれた。「私は漫画家になりたいんです」と言ったものの、「相撲をとっていても増位山は油絵で二科展に入選し、歌手もやっている」という言葉に誘われて入門。しかし、現実の相撲界は甘くなかった。はじめの5年間は、朝5時から雑用や兄弟子たちの世話など、自分の時間はどこにもない。隠れて絵を描けば、兄弟子に叱られたり、道具を捨てられたり。それでも時間を見つけては漫画を描いていた。



今の自分があるのは、すべて相撲のお陰です

三段目まで昇進したが、勝負の世界に馴染めず、昇進の見込みも無いと悟った琴剣さんは、昭和61年に廃業、新宿のチャコ屋で働いた。しかし、漫画家になりたいという夢を忘れられず、昭和63年に船橋に移転して、本格的に漫画に取り組んだ。「とにかく徹しな生活でした。スーパーの屋上で子どもを遊ばせる100円玉も無かったです。そんな時、佐渡ヶ嶽親方は「ダメなものにチャレンジするのは努力だ」といって励ましてくれた。昼に外で働いて、夜に漫画を描く。その努力の日々が若貴ブームを呼び寄せたのか。 「今の自分があるのは、すべて相撲のお陰です。漫画を通して、真の相撲を知ってもらおうことが、相撲に対する恩返しと思っています」。琴剣さんの漫画は、10年間の力士生活が生んだ真実の相撲界。現在は、数本の連載を持ち、相撲グッズの開発・販売も手掛けています。「今は、漫画家の十両。早く入幕して、私の漫画がアニメになるといいですね」と、将来への意欲を語ってくれた。

ふらばの民話

重右衛門ばなし(十) 偽穴部問答

文・村上昭三

「にせろくぶだ、これはにせろくぶ」と大声で叫びました。六部は、最初は何かと悪い癖が出た、仲間に「おれ、あの六部にけんかを売ってやるべえ。絶対に六部の鼻をへし折ってやるから見てろよ」と威勢よく言いました。仲間は、とばかりちりちり受けては大変と思いつつ、「重右衛門、六部にけんかをふっかけたのは罰が当たるぞ。止めろ、止めろ」と本気で止めました。2人がそうこうしている間に、六部は近くまで来てしまいました。そこで重右衛門は、さっさと六部の面前に立ち、右手を何気なく畑の方を差ししながら



江戸時代の六部の姿 (広辞苑第四版より)

と、それはすごい剣幕で怒りました。 「ところが、重右衛門はちよつと澄ました顔で、 「おら、偽六部とは言つてねえだ。この右側の畑の区割は二畝六歩(約257平方米)あるなど言ったまてだ。何んでそげえに怒鳴るんだ。」と、六部を上げげと見ながら言いました。 これには六部も、大変な男もいるもんだと思いが、来なく、急に牙を収め、その場をほうほうの体で立ち去ったということです。また、この問答を始めから終りまで聞いていた仲間は、重右衛門の機転の早さと頓智の見事さに、唯々舌を巻いたということです。

アイ・ラブ・フナバシ



公共の場所をもっと大切にしてほしい

古沢 エスターさん
(薬円台)

「近くの公民館では、日本語教室や文化祭などもあり、よく足を運ぶんですよ」と笑顔で話すエスターさん。ご出身は、スイスのチューリッヒ近郊で、気候は北海道に似ています。6年ほど前、アメリカの語学のスクールでご主人と知り合いました。「船橋に住んで2年たちますが、交通量がとても多いこと、それからテレビや自転車、時には車まで道路に捨てられていることに驚きました」と苦笑。公共の場所をとても大切にしているエスターさんは、興味は、編み物、アンティークな家具や焼き物

の鑑賞、そしてハイキング。週末にはご主人とよく奥多摩方面に出掛けるとか。日本食にも大分慣れてきて、タラコ以外は何でも食べられます。市の日本語教室に通うかたわら、週3日東京の日本語学校でも勉強している努力家。「漢字でも偏やつくりの意味があるものは、比較的覚えやすいんですよ」とニコリ。将来は、資格を取って仕事をしたいというエスターさん。当面の目標は、日本語をしっかりと覚えることだそうです。



良い皮ほど薄く破れやすいので張るのが大変です

「邦楽や歌舞伎のテレビはよく見ます」と加藤さん

「船橋駅南口から京成船橋駅の踏み切りを過ぎると、左に曲がる路地が何本あります。その内の一本が「仲通り」。この仲通りに琴・三味線を扱う菊屋楽器店があります。ご主人は加藤憲吾さん。先代のお父さんからお店を引き継いで40年になります。昔は三田浜のあたりで芸者さんが大勢いて、三味線もよく使われたんですよ」と加藤さん。三味線の胴に張るのは、お産の経験や傷の無い若い猫の皮が一番良くて、おなかの部分を使うそうです。「皮を張るのが一番難しいんです。何とか張れるようになるのに10年はかかります。薄い皮をパンパンに張ると音が響いて良い音が出るんですが、強く張り過ぎると破けてしまふんですよ。皮を張る糊は、もち米をふかしてから粉にして練ったもの。天気が悪いと糊の付きも悪く、乾くのに普段の倍はかかるそうです。一日に張れるのは胴の片面だけ。一棹の三味線の皮を張るだけで二日かかります。」

「琴や三味線という超高級品とされている人が多いようですが、庶民の楽器なんです」と話している音色を聞くに何故が落ち着く、そんな和楽器の伝統を大切にしたいですね。

お店

菊屋楽器店

本町4-42-14
0474(22)8002

あとながき



年に3回ぐらい来ているという工藤さんご一家

ワンパク王国が
入場者200万人

11月3日、ワンパク王国の入場者数が200万人を突破しました。幸運の200万人目となったのは、工藤貴君6歳(海神町南在住)。ゲートで「おめでとうございます」と声を掛けられ、びっくりした様子。この日は家族4人で来園。ワンパク王国オリジナルグッズなどが贈られました。

マイ・ファッション

服・アクセサリ・バッグなど
全体でバランスを考えています

平澤美保さん(咲が丘)



ダブルの前ボタンの黒いワンピースに、ベージュのカシミアのストールを羽織って、黒いハイヒールで登場した平澤さん。シックで落ち着いた雰囲気の中にも、さり気ない華やかさが感じられました。「華やかなのは好きですけど、全体的な色やデザインを考えると、派手にならないように気を付けています」

毛先をカールしたセミロングの髪の間から、細かいトルコ石とラピスラズリを花びらのように散りばめた、少し大きめのイヤリングがのぞいています。「ネックレスはイヤリングとのバランスを考えて使い分けました。今日は大きめのイヤリングなので、ネックレスはしていません」。ほかのアクセサリは、花をイメージした愛らしいリング。はっきりとした色が好きで、主に黒・白・茶色の服が多いとか。船橋駅周辺や近隣の近郊でウィンド・ショッピングを楽しみます。

趣味は、サッカーや相撲観戦。特にサッカーは、お父さんが全日本で釜本や杉山と一緒に活躍した日立製作所(現・柏レイソル)の選手、サッカーが生活の一部だったそうです。史学部出身という平澤さん、エジプトに歴史の旅をしたみたいとすてきな笑顔を見せてくれました。

アラカルト料理同好会
小室公民館



みんな料理が大好きです



いろいろな料理を楽しみながら作っています

「楽しい仲間とおいしい料理のレパートリーが増えました」と皆さん。現在29人のメンバーが毎月第3火曜日に活動しています。料理は和食、洋食、中華など様々で、季節に合ったものを作っています。今回は、クリスマスに向けて「スタッフドサンド」「牛肉のひき肉包み」「つぼ焼きスープ」「フルーツポンチ」に挑戦。木村信子先生の丁寧な指導を受けながら、皆さん手際良く料理に取り組んでいました。「子供と一緒に楽しみながらお菓子を作るので、子供たちも大喜びです。皆さんも仲間に入りませんか」と代表の箱崎さん。おいしそうな香りと、和やかな雰囲気の漂うサークルでした。

(連絡先: 箱崎洋子 ☎57-6736)



誰にでもできる無理のない運動が基本です



新しい方の参加をお待ちしています

東部婦人体操クラブ
東部公民館

東部婦人体操クラブは、昭和47年に発足した30年以上の歴史を持つクラブで、10月には文部省から社会体育優良団体として表彰されています。現在、会員は約30人。50代、60代が中心で、毎週木曜日に集まって汗を流しています。ゆっくりとしたリズムに合わせた準備体操から、軽快なステップのジャズ体操やフォークダンスへと進みます。健康の増進と社会体育の振興に努めているというこの会。「とにかく、仲間と一緒に楽しく体を動かして、ストレスも解消できるのが何よりです」と皆さん。あなたも手軽にできる運動を始めてみませんか。

(連絡先: 山久保敏子 ☎72-1630)



月に1回はスケッチに出掛けています



お弁当を持って、一日かけてゆっくり描いています

みんなの
広場

サークル
通信

パレットやくえんだい
薬円台公民館

老花防止にと、知人に声をかけたのがきっかけだったというこの会。講師はいませんが、経験のある仲間が教えるという気軽で自由な雰囲気が受けて、口コミでウワサが広がり、今では30人。毎月第1・3火曜日に集まって絵筆を走らせています。手掛ける作品は主に静物画。油彩、水彩にこだわらずに描いています。「作品を仕上げる過程がとても楽しいです。もう少し上達したら、市民ギャラリーで作品展もやってみたいです」と代表の高尾さん。3時のお茶の時間も楽しみの一つとか。笑い声の絶えないとても楽しいサークルでした。

(連絡先: 高尾 泉 ☎66-1339)

なまえ

ミー (ミケ猫)

オーナー

斉藤 小枝さん (夏見3)



なんと言ってもご主人という時が一番幸せ

私、ミーちゃん。どこにでもいるミケ猫なんです。もう10年以上前かな。ご主人のお宅の周りをウロウロして、たまに食べ物に失敬したことも、今では懐かしい話ね。以来みんなかわいがってくれて、気が付いたら家族の一員になっていました。好物は、ゆでた小アジ。これが鼻につかなくてとてもおいしいの。ちょっと疲れたときには甘い物に限るわね。ケーキやアイスクリームなんか最高。ぜいたくな話だけど、ご主人に一つお願いがあるの。家族で旅行に行くときは、私も一緒に連れて行ってください。おりこうにしているから。ペットホテルじゃとても味気ないもの。

人間でいえば、私も90歳近くのおバアちゃん。気まぐれな性格を少し直して、みんなに好かれるように100歳までガンバりますから、みんな応援してネ。

ペットインタビュー

やったぞ！市立船橋高校

駅伝男女・サッカー全国大会へ



高校駅伝男子の部。市船のアンカー仲田雄介君がトップでゴールインすると、待ち受けたチームメートにもみくちゃにされながら喜びを分かち合っていました



高校駅伝女子の部では、市船が全区間1位で優勝。6年連続で全国大会への出場を決めました



「国立競技場でプレーするまで勝ち進みたいです」と市船イレブン



市船、鈴木いども君のシュートが弧を描いてゴールに突き刺さりました

11月6日、千葉県高等学校駅伝大会で、市立船橋が男女アベック優勝。また20日には第73回全国高校サッカー選手権大会千葉県大会の決勝で、市立船橋が渋谷幕張を破り優勝。ともに全国大会出場を決めました。

印旛郡白井町で行われた駅伝大会には、男子40校、女子29校が参加しました。市立船橋女子は、1区スタート直後から2位以下を引き離し独走体制、前評判どおり6年連続の全区間1位と、2位に4分以上も差をつける圧倒的な強さで優勝しました。昨年2位の雪辱に燃える男子は、3区でトップに躍り出ると2位以下を徐々に引き離し、待ち受けたチームメートのもとへ歓喜のゴール。2年ぶり9回目の優勝を飾り、12月25日に京都で行われる全国大会にアベックで出場します。

20日に市原臨海競技場で行われた高校サッカー千葉県大会決勝は、市立船橋対渋谷幕張と優勝候補同士の激突になりました。前半22分に市船が先制ゴールを決めましたが、後半32分に痛恨のPKを渋谷幕張に決められ同点。実力伯仲の両校はお互いに一步も譲らず、試合は延長に突入しました。両校とも決定的なチャンスに得点できず、結局PK戦の末3対1で市船が2年連続8度目の優勝を飾りました。全国大会出場を決めた市船は、12月31日に千葉県総合運動場で熊本農業高校と対戦します。

市立船橋高校の全国大会での活躍に、市民の皆さんの熱い声援をお願いします。